目指す姿
【運営理念】学びに出会う機会と学習成果をいかす機会を提供するための中核施設を担います 【目指す姿1】 市民がいつでもどこでも学ぶための情報を得ることができる環境がある 【目指す姿2】 多様な市民が地域や時間の制約なく学んでいる 【目指す姿3】 市民が学んだ知識を自身の生活に活かすことができている

役割1　学びの裾野を広げる					
取組名	取組内容	具体的な見直し内容	ターゲット層	計画上の2024年度予定	2024年度の取組実績
取組1-1 ◇学びの入口の充実	①学びのきっかけとなるような入門講座の実施	・他部署との重複事業を整理し、役割に合せて事業を体系化します。 ・市民大学、ことぶき大学、家庭教育支援事業は、【役割3：学びを深め、活かす】事業との整理を行います。 ・学びに出会う「きっかけづくり」に重点を置き、入門講座の充実をはかります。	原則として18歳以上の全市民	実施	○「2024年、世界はどう変わる～2つの大統領選挙から」「歌で作る健康と仲間づくり～唱歌・童謡を中心に～」等、誰もが気軽に参加できるよう、身近なテーマを題材とした「学びのきっかけづくり講座」を4講座実施しました。
	②若者・生産年齢層向け事業の推進	・若者等のニーズを聞く機会を創出し、若者向け企画を検討・実施します。 ・30歳代から50歳代の利用につながる学びを提供します。 ・事業へのインターンやボランティアとしての関わり方を検討します。	18歳以上の若年層、生産年齢層	事業の検討	○若者・中年層向け事業については、若年層や働く世代からの意見を踏まえ、「人生100 年時代の自分らしいライフ＆キャリアとは？」や「40代・50代のための賢い選択」といったお金や仕事をテーマにした2講座を実施しました。
	③アウトリーチの拡充	・市民センター、コミュニティセンター、図書館等を活用し、事業の地域展開を推進します。	生涯学習センターに来にくい方	アウトリーチ事業の実施	○講座内容が高齢者向けの場合は忠生地区、子育て世代向けの場合は南地区など、ターゲットに応じて実施地区を選定しました。また、10月から改修工事により生涯学習センター（施設）が休館となったため、町田地区以外の場所で実施した講座が全講座の約40%を占めました。

役割2　誰もが学べる環境をつくる					
取組名	取組内容	具体的な見直し内容	ターゲット層	計画上の2024年度予定	2024年度の取組実績
取組2-1 ◇学びのセーフティネットの充実	①障がい者青年学級の再構築	・生涯学習センター運営協議会で関係者等からの意見聴取を実施します。 ・再構築に向け、持続可能な仕組みを検討します。	学ぶことに支援が必要な方	検証・再構築に向けた検討	○施設の休館中においても、活動場所や支援スタッフ体制の調整など安全性確保のための対策を講じながら、事業を安全に実施しました。また、事業の新たな仕組みづくりとして、他自治体の状況調査を実施し、その調査結果を踏まえて、事業目的や参加対象者など事業実施に必要な項目を定める事業実施要項案を作成しました。
	②学習支援事業の再構築	・支援が必要な方及び他機関の学習支援情報を把握し整理します。 ・再構築に向け、事業を見直し、必要に応じた支援事業を検討します。	16歳以上の市民	支援が必要な方及び他機関の学習情報の把握	○まなびテラスのような学習支援事業について、より多くの方に学習の機会を提供できるよう、新たな仕組みの検討に向け、関係機関や同様の取組を行うNPO法人等にヒアリングを行いました。
	③デジタルデバイド対策の拡充	・事業を継続し、拡充するための方策を検討します。 ・ICTリテラシー講座を検討します。	高齢者層中心	基礎的講座及び活用講座の実施	○なんでもスマホ相談のようなマンツーマン形式による相談会のほか、行政サービスのオンライン化に対応できるよう、LINEに特化した内容など集合型形式による講座を2講座実施しました。
取組2-2 ◇生涯学習情報のデジタル化の推進	①情報提供のデジタル化	・生涯学習NAVIの情報を整理し、デジタルで利用しやすくします。 ・多様な主体の生涯学習情報を収集し、データベース化して、情報提供します。	新たな利用者	情報の整理・手法の検討	○外部委託を念頭に、運営協議会において意見を伺い、民間活力導入案（仕様概要）を作成しました。
	②講座事業のデジタル化	・デジタル配信講座を実施し、拡充します。 ・講座ごとにデジタル化、アーカイブ化を検討します。 ・サテライト会場等での上映を検討します。 ・効果的な周知方法を検討します。	新たな利用者	手法の検討	○ソーシャルメディアを活用し、人間関係学や健康学の市民大学講座など5講座をオンデマンド配信等により実施しました。
取組2-3 学習相談の充実	①学習相談コーディネーター制度の導入	・一般的な学習相談に対応するため、窓口に学習相談員を設置します。 ・他機関との連携が必要となる高度な学習相談に対応するため、コーディネートチームを設置します。	もっと学びたい方	学習相談員の配置及びコーディネートチームの設置	○2023年度から配置した窓口相談員を開館中、継続して配置しました。 ○コーディネートチームを設置し、調整を要するような相談に組織で対応できる仕組みを整えました。 ○外部委託を念頭に、運営協議会において意見を伺い、民間活力導入案（仕様概要）を作成しました。

役割3　学びを深め、活かす					
取組名	取組内容	具体的な見直し内容	ターゲット層	計画上の2024年度予定	2024年度の取組実績
取組3-1 ◇地域での学びの拡充	①市民大学の再構築	・市民大学の各講座を、【役割1：学びの裾野を広げる】事業との整理を行い、課題解決型・人材育成型に再構築します。 ・プログラム委員制度を見直し、市民ニーズを収集する仕組みを整えます。 ・修了生団体の育成に主眼を置いた制度へ移行します。	地域で活動する方	市民意見反映手法の見直し	○市民大学事業の再構築の方向性について、生涯学習センター運営協議会にて意見聴取を行い、市民ニーズを把握する手法や事業目的等を検討しました。 ※2025年度も引き続き、市民意見反映手法など再構築の内容について検討します。
	②講座づくり★まちチャレの再構築	・多くの方が活用できるよう、保育付きや若者を対象とするなどの検討を行います。 ・選定基準を見直すなど、仕組みを再構築します。	地域で活動する方	選定基準等の見直し	○市民提案型事業について、市民参画しやすいよう保育付き講座枠を設けるなど実施方法を見直すとともに、団体選定にあたってのヒアリング内容を整理しました。 ※2025年度も引き続き、選定基準等の見直しを行います。
	③地域連携講座の新設	・地区協議会、町内会、自治会、など地域組織と連携して、講座を実施します。 ・アウトリーチによる身近な学びを推進します。	地域で活動する方	地域連携講座の検討	○現在、地域連携を行っている鶴川地区協議会のほか、町田第二地区協議会へのアプローチを行い、新たな連携先の検討を行いました。
	④家庭教育支援事業の再構築	【役割1：学びの裾野を広げる】事業との整理を行い、学びを深める内容に再構築します。 ・地域での子育て世代に向けた学びの場を拡充します。 ・ひろば事業を縮小します。	子育て世代	検討・再構築した仕組みで地域開催を実施	○様々な保護者が学習の機会を得られるよう、乳幼児の保護者向け事業と小中学生の保護者向け事業の割合や受講方法を見直し、再構築した仕組みで事業を実施しました。

役割4　学びのネットワークづくりを促進する					
取組名	取組内容	具体的な見直し内容	ターゲット層	計画上の2024年度予定	2024年度の取組実績
取組4-1 ◇学びのネットワークづくりの促進	①ボランティアバンクの再構築	・利用促進に向けて検討します。 ・活動支援として研修制度を導入します。 ・学校運営協議会向け冊子を作成し配布します。 ・学校教育部との連携により、各学校やコミュニティスクールでの活用を推進します。	学びの場を作りたい方・学びの成果を活かしたい方	再構築した仕組みで実施	○子ども指導者の認証制度を取り入れたボランティア紹介冊子（2023年度作製）を、子ども施設、学童保育クラブ、学校支援ボランティアコーディネーター等に配布し、周知を行いましたが、年間の利用は5件に留まりました。
	②他機関との連携強化	・定期的な生涯学習情報収集の仕組みを作ります。 ・コーディネートチームによる連携先の開拓を行います。 ・他機関と連携することで、【役割1：学びの裾野を広げる】、【役割2：誰もが学べる環境をつくる】に属する事業を拡充します。 ・生涯学習センターを庁内他部署が公的利用する際の連携を強化します。	新たな利用者	構築した仕組みで実施・連携先の開拓	○2023年度に設立した、町田市と相模原市に所在する大学等8校、町田市、相模原市、町田商工会議所、相模原商工会議所が参加するプラットフォーム組織（相模原・町田地域教育連携プラットフォーム）において、さがまちカレッジの枠組みで「子どもの発育発達の基礎知識」「ドタバタ運動教室」「薬学講座」など18講座を、独自枠で「キッズ・スポーツチャレンジ」の合計19講座を実施しました。プラットフォームでは、他にも就職セミナーや災害対策における連携構築なども行いました。
	③リカレント・リスキル教育情報の整理・提供	・大学等との連携による社会人の学び直しにつながる情報の収集・整理・提供を行います。	新たな利用者	検討	○相模原・町田地域教育連携プラットフォームの枠組みで、リカレント・リスキル講座の実施に向けて、調整を行いました。
取組4-2 学習成果の還元	①センターまつり・ガクマチEXPOの再構築	・開催方式を再検討します。 ・成果発表の場を拡充します。	団体活動者 利用が少ない世代	再構築に向けた検討	○センターまつりについては、施設休館の影響により、例年より1ヶ月繰り上げて9月に実施しました。また、大学生有志の団体にも参加していただいたことにより、多世代交流の場となりました。 ○ガクマチEXPOについては、施設休館の影響により、ぽっぽ町田を会場として選択し、人通りの多い場所で実施したことで、普段来館しない方も多く参加しました。また、同イベントの実施にあたっては、多くの学生が企画、準備、当日の運営など主体的に関わりました。
	②修了団体支援の構築	・公平な支援ルールを整備します。 ・修了生団体活動のPRにつなげます。	団体活動者	構築・実施	○市民大学や家庭教育支援学級に関しては修了者の団体加入や団体設立に向けた支援を行いました。また、障がい者青年学級や学習支援事業に関しては、各事業と連携する自主活動団体に対して活動会場の提供等の支援を行いました。併せて、これらの学習支援の整理と制度化に向けた検討を進めました

管理運営体制の見直し				
取組名	取組内容	具体的な見直し内容	計画上の2024年度予定	2024年度の取組実績
取組5-1 運営手法の見直し	①業務委託範囲の拡大	＜導入事業の考え方＞ ・【役割1：学びの裾野を広げる】【役割2：誰もが学べる環境をつくる】うち、民間のノウハウが活かせる事業を業務委託します。 ・【役割1：学びの裾野を広げる】取組1－1①、【役割2：誰もが学べる環境をつくる】取組2－1③、取組2－2①②は原則業務委託とします。 ・【役割2：誰もが学べる環境をつくる】取組2－3①は一般的な学習相談部分を業務委託します。 ・【役割3：学びを深め、活かす】取組3－1①④は業務を細分化して一部の工程を業務委託します。 ＜導入後＞ ・効果を検証後、導入範囲の拡大を検討します。	業務委託範囲の拡大	○運営協議会において意見を伺い、民間活力導入案（仕様概要）を作成しました。 ※当初、2024年度実施を予定していましたが、施設の休館に伴い、情報提供、講座のデジタル化と併せて、2026年4月の委託範囲拡大を目標としています。
取組5-2 組織体制の整理	①「全体計画立案機能」の生涯学習総務課との役割整理	・生涯学習総務課との役割を整理します。 ・必要に応じて組織改正を行います。 ・関係例規を改正します。	関係例規の改正	○全体計画機能の一部（生涯学習推進計画）について、町田市教育プランに統合し、生涯学習総務課へ業務移管しました。 ※関係例規の改正は、他の見直し項目と併せて行います。
取組5-3 学びの場の整備	①施設名称の変更	・「町田市生涯学習センター条例」に一本化します。 ・愛称やネーミングライツなどの導入を検討します。	条例等の改正手続き	○施設休館により、来館者意見の聴取が難しくなったことから、再開館後に検討時期を変更しました。2024年度は、関係法令を再確認し、課題の整理を行いました。
	②施設利用の促進	・若者向け利用促進策や減免制度の仕組みを構築します。 ・視聴覚室等を、学習スペースとして夜間開放できるよう仕組みを構築します。 ・保育室の利用率向上に向け、無料開放などの利用促進の仕組みを構築します。 ・館内Wi－Fiの利用ルールを再構築します。	条例等の改正手続き	○2023年度から開始した視聴覚室夜間開放、保育室開放、館内Wi-Fi開放について、2024年度も開館中、継続して実施しました。 ※本項目については、条例等の改正を要する変更は行いませんでした。
	③学校施設利用の促進	・町田第一中学校型学校施設利用制度の確立に向けた検討を行います。 ・個人向け学校利用の検証と再構築を行います。	再構築に向けた検討	○東京都からの立ち上げ支援（補助金）期間の終了に加え、学校プールの工事による開放中止という想定外の要因がありましたが、事業継続に向けた検討を行い、2025年度も継続実施することとしました。